

第11回（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会

議事要録

日 時 平成 21 年 3 月 23 日（火）18：30～21：55

場 所 クリーンセンター 3 階 見学者ホール

出 席 寄本勝美委員長、田村和寿副委員長、早川峻委員、越智征夫委員、石黒愛子委員、広江詮委員、橘弘之委員、佐々木保英委員、村井寿夫委員、前川智之委員、井上良一委員、事務局（環境生活部環境政策担当部長、クリーンセンター所長他）傍聴 11 名

1. 吉祥寺南町コミセン勉強会の報告

委員 : 参加された市民の方は部分的な知識で意見を言われるが、全体が見えていないという印象。

委員 : 三鷹との処理費の違いについて言われるが、基準が異なる。寿命が 30 年というならば、3 基あるので延命できるのではないかという意見があった。データを取って、外観だけではなく技術的に説明せねばという話があった。本当に PR しているのかとあったが、勉強会もそうであるし、各委員も機会があるごとに PR している。

委員長 : 三鷹が安いというのは、収集についてほとんど 100% 委託に出している。安い方が良いとは必ずしも言えない。単なるコスト比較では量れない。三鷹と武蔵野は意識がなくとも競争している。三鷹はまだ有料化を実施していない。

2. 「中間のまとめ（案）」の検討

副委員長 : 前回作業部会でも多くの参加がある中で議論したが、「中間のまとめ」の構成を大きく変えている。技術的な話が多くこれは必要であるが、一般の市民の方が一読して解るようにする必要がある。このため大きく構成を変えた。6 月まで延長した中で、6 月の仕舞いから遡ってやっていく必要がある。手に余るが大きな前提があり、これまでの歴史をどう評価するか、建て替えが必要なのかの話、市のごみ問題全体での位置づけ、焼却から非焼却の話、広域処理での対処といった全てに論理的に答えていくのは無理であるが、一定の判断をしなければならない。これらをどう判断したかをまとめている。それからコンセプト、整備用地の選定、施設づくり、まちづくり。どういうものを作るかということで施設づくりの部分に時間をかけてきた。技術的な話が入るが出来る限り明快にということでもとめた。

事務局より「はじめに」を音読。

委員 : ですます調に統一した方が良い。

事務局より第一章を音読。

副委員長 : 文責は私にある。意見をいただきたい。

委員 : 運営協議会とのパートナーシップにより円滑にやってきたため、これを継続したいということになると、苦渋の選択がベースにあることの認識が必要。また、市役所北エリアの全面的な利用の見直しには行政の縦割り等の制約を排除し横断的に議論して決め手行く幅広さが必要という旨を入れるべき。

副委員長 : ここまで踏み込んでいいかというのはある。

委員 : 周辺の住民だけの問題ではないというところを一番にやってきたが、ここで明確にさせていただいているのは画期的かと思う。

副委員長 : 最終的に場所を決めるのは市長であるが、一定の考え方を示唆するのが私たちの役目。

委員 : 非常に解りやすくいいと思う。二者択一でいいと思う。4R というのがあり、3R でやってきているが4にしたのはなぜか。

副委員長 : リフューズ(拒否)というのが大変好きだが。

委員 : 注釈を入れれば良い。

委員 : 「広報小委員会による更なる活動」が漠然としすぎている。広報小委員会で市報特集号を出したであるとか、具体的なものを入れるといいのでは。

委員 : 6ページ(「中間のまとめ」の意味と役割)の「4 整備用地」と「5 まちづくり」は非常に興味のあるところ。5が先かなと思う。

委員 : 3, 4ページ(問題の発生と論点の設定、課題の理解と議論の進め方)は文才のある方にはわかりやすいかと思うが、論理が先行していてスーッと入ってこない。もう少し表題を考えるべき。市民が見てどう思うか。5, 6ページのように文面の要約を小見出しとしてつけるといいのでは。

副委員長 : 少し固い気はしている。

委員 : 難しい字はあまり使わないようにすれば解りやすく読めるのでは。

副委員長 : 場所の部分は私のフレーズではないかという気がしているが、これを言わなければ見えてこない部分がある。

委員長 : タクシーでクリーンセンターと言ってもわからない。「クリーンセンター」という名称は、全員に認知されている訳ではないようだ。

委員 : 6ページに京都議定書とあるが、地球温暖化に寄与する環境負荷を新施設でどのくらい削減できるのか。

- 事務局 : 38 ページ、省エネと発電で電力使用の削減が図られる。
- 委員 : 現施設は蒸気を使いきれず煙突から出している。それを所内で利用することが温暖化対策に寄与する。
- 事務局 : 今日お配りしているのは本編のみで、まだ間に合っていないが、資料編も組み替えしてお渡しする。表紙と7ページに載せているが、4月15日号の市報に掲載してパブリックコメントをとっていくスケジュールとしている。

事務局より「第二章 基本的な前提課題と条件の理解と判断」の説明。

- 委員長 : 焼却と二酸化炭素の関係はわからないが、一部では全体の3,4%くらいではないかと言われている。日本は補助金で誘導され焼却施設での処理になっている。財政の仕組みと密着している。
- 委員 : 17 ページ、非焼却に剪定枝葉とあるが、葉っぱも入ってくるのか。うちの団地は落ち葉が多いが落ち葉はごみではないとされどう処理していいかわからない。20 ページ、ごみ減量協議会で検討とあるが、この協議会でどんなことをしているかなんらかの説明があったほうがいいのでは。
- 委員長 : 落ち葉について、野焼きが禁止になって庭でゴミを燃やして通報された。落ち葉を集めると庭の土がやせる。
- 委員 : 10 ページ、施設をダウンさせるわけに行かないため予防保全的にやっていることを明記すべき。

事務局より「第三章 新クリーンセンター‘施設づくり’の基本コンセプトと内容・イメージ」「おわりに」の説明。

- 副委員長 : 3章はこれまで検討してきた詳細のところでもう少し解りやすく出来る方法があればいいが。
- 委員長 : 先ほど補助金の話をしたが、ニューヨークでは焼却が使えなくなり分別が始まり、分別をしないと罰金が取られる。隣の州に持っていっているが課徴金が取られる。日本のように補助金がないので施設が作れない。シアトルではゴミを減らすか大金を払って施設を作るかとなって、市民は減量を選んだ。
- 委員 : 24 ページ、災害廃棄物のところに整備用地の場所を特定するような記載がある。地域とか街とかまちづくりとかいろいろな表現があるが、現施設と新施設どちらを言っているのかが混ざっている。特に37ページ(次世代型都市施設としての要件)。これらが何を対象としているのか。39ページ、環境マネジメントシステムのところは報告をまとめるのが仕事ではなく、目標を定めてチェックし是正するというシステムを作ることにある。40ページのまとめに

「地域に根付いた」とあるが、根を下ろして半永久的にあると捉えられる。溶け込む様な表現の方がいい。

副委員長 : 大きな筋のところの意見をいただきたい。細かいところは通して読んでいただいてこの場でなくてもご意見いただければ。

委員 : 25 ページ、資源化施設が市街地であるだけでダメなように見える。運営協議会について、市が応えたという形になっているが、協働してきた成果を示すべき。

委員 : 運営協議会についてはクールに書けばいい。両者が果たしてきた役割があって、当たり前にあったことを書くべき。25 ページ、リペア施設は何かわからないので説明が必要。何のためにこれにこだわったか書くべき。勿体無いの精神が込められている。リペア工房に統一するといい。39 ページ、モニタリングのところかと思うが、新施設で発電があるのであれば、発電量やどこに送られているとか、そういう表示があるといい。

委員 : 37 ページ、周辺のまちづくりか市全体かという話はあるが、他所は川沿いとか緑の育たないような環境の悪いところにあるが、武蔵野の場合には全域どこでも緑が育つような場所になる。

委員 : 34 ページ(接道について)、トレーラーの必要幅にプラスして歩道が必要なことを書いておく必要がある。5,6 ページ(「中間のまとめ」の意味と役割)これを入れた意味合いとしては、委員会にこういうことをしていただきたいということか。前文も直してほしい。5 番(整備用地)の意味合いは。

副委員長 : こういう前提でせざるを得ない。スケジュールはどうなっているか。31 日には市長に出すことになるのか。

事務局 : 今回は提言ではなく、「中間のまとめ」なのでこういう方向付けという報告。4 月 15 日に市報で出すので、それまでに若干の手直しは可能。3 月 31 日の 16 時に市長報告、参加いただける委員で市長と意見交換。

委員 : 委員会スケジュールにコミセン勉強会を入れるべきでは。

事務局 : 勉強会と市報は入れたい。気づいた点をご連絡いただきたい。

委員長 : この委員会は場所の提言をする必要がある。場所を決めた後の市民参加は、その周辺住民である必要があるのでは。

事務局 : この委員会が入り口で、提言をいただき行政が決めた後に次の手続きは考えていきたい。ただ全市的というのが一つのテーマなので今後もこういったスタイルが必要ではないかと考えている。

委員長 : 場所が決まった後の参加の仕組み。

副委員長 : 権限がどこまでかというのもある。あり方をどうするのかのようなところは、周辺の人とも考えていけるのでは。

委員 : 表紙に設問があるがこれに対してどういう意見が出るのか。いろいろ出してもらう方がやってきた甲斐があるかと思う。その内容について見解を出すことになるのか。全く違う意見が出てくることも覚悟が必要。

委員 : この委員会で市民参加が終わるのではなく、決まった場所の住民が入るのは重要。基本設計、運営のところになんらかの参加が出来るように引き継いでいく必要がある。

委員 : 前は建てるのに同意が必要で、条件として建設を市民参加でやるようにした。機種選定は他でやったが、デザインから処理フローまでそこで決めた。駆け足でメンテナンスなど考えていなかったが、今回は時間があるのでしっかり考えられる。

了 (午後9時55分)